

|              |   |
|--------------|---|
| Title        | もめごと・トラブルを解決していくということ   |
| Author(s)    | 稲葉, 一人  |
| Citation     | 臨床哲学のメチエ. 2003, 11, p. 36-39  |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/12679">https://hdl.handle.net/11094/12679</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University



十二月五日(火)

担当 いなば

テーマ

身近なトラブルを  
解決する

## 1 はじめに

二〇〇二年十一月五日に表記テーマで、福井高校で授業を行いました。その概要と考察のほか、資料として、その際の生徒からのアンケートを集計したものを添付して、ここに報告します。

私自身、元裁判官として、また、紛争解決の専門家として、現在法律家相手に、Mediation(調停)の技法のトレーニングをしていますので、今回の高校生への授業は私が試される場面であるとして、緊張をしました。案の定相当苦労しましたが、新たな発見があり、驚き感動しました。

## 2 概要

ビデオとアンケートを用いました。用いたビデオ(私がスク립トを書き、劇団が演じたもの、素材は本日の事件)は、「伊藤さん」が、「高野さん」夫婦の隣の犬が鳴いてうるさいというのに、これを高野さんが認めず、まず、当事者同士で交渉するがうまくいかず、下手な第三者(調停者、Mediator)が入ってもうまくいかず、上手い(トレーニングを受けた)調停者が仲介すると対話ができるという、3部構成のもので、このスク립トは大部ですので、この報告書には掲載していません。このビデオを順に見てもらい、それぞれ、(一)なぜこの当事者同士の話し合いは上手くいかなかったのか、(二)第三者(山田さん)が入ってもなぜ上手くいかなかったのか、(三)上手い調停者はどこが上手かったのか、

もめごと・トラブルを  
解決していくということ

稲葉一人

かと、一人一人、私が、聞き出していくという戦術をとりましたが(当初は全体で対話ができると思いましたが、無理と考え、一人一人とじっくり対話していくことにしました)。同時に、手元にそれぞれの問いを書いた紙を配り、私との対話・会話でたどり着いた点を、自分の言葉で書いてもらう(これが後記アンケートです)ということ副次的に用いました。一見、一人一人の意見を聴くという作業でありながら、残りのものは私語をしながら、これに関連して話をしていたり、ビデオを共通のものとして、他人事としてとらえず、私を中心とした話でありながら、それぞれがよく考えてくれました。たとえば、Wさんは、(一)について、高野さんが認めなかったもので、うまくいかない、だから、証拠が必要だ、しかし、それをテープでとって

持つて行っても、自分の犬ではないといわれてしまうので、ビデオに撮って持つて行ったら・・・として、様々な相手の対応を想定して、具体的な方法を考えてくれました。Mくんは、「同じ被害を蒙った多数の近所の人を連れて行ったらいいのでは」としますが、「では君が高野さんだったらどうするか」と質問すると、よけいに反発することに気づき、「中立者が必要だ」と応答します。MさんとHさんは、仲良しですが、「もし君たちが高野さんで、証拠を突きつけられるとどうするか」と問うと、Mさんは「納得できないし反発を感じる」とし、Hさんは、「すぐにあきらめて謝ってしまふ」とし、二人が違つて対応をとるといつことに気づき、「それはなんだろう」と水を向けると、Hさんは、「人だから、考えが違う」と。同じことは、全員について言えます。(二)(三)についても、とても素晴らしい応答が、これはむしろ専門家や大人ではない、とてもユニークで私が教えられる回答を自ら搾り出してくれました。どの答えもそれなりに光っていましたし、私がこの答えをしてくと示唆は一切しなくとも(私は、答えはないと思っていますが)、なんとか出てきます。ただ、全員が同じ話題を、意見の違いを超えて話し合う訓練がなされていないため、一つの問題を中心に全員を引き込むことは難しいのですが、一

人一人ねばり強く聴き、抽象的な言葉で思考を止めようとする。(二)ここで粘り(chunk down)というcoachingの手法で塊を揉みほぐすと、実に自分の言葉で、深い言葉が返ってきたことは事実ですし、私自身もこれを受けて変わってきたしました。Mくんはこんな授業が面白いとささやいてくれ(本当かどうか分からないが)、彼らは、くしくも、成功した調停者は、自分の意見を押し付けるのではなく、「よく聴いていた」点に成功のポイントがあると言ってくれていました。少々、干渉くさい授業でしたし、多大なエネルギーが必要ですが、多く得るところはあります。

### 3 考察

この生徒たちは、紛争についてこれまで真剣に考えたことはなかったと思います。しかし、彼女らの言葉を味わってみると、私との対話で出てきた、至極の言葉は、彼ら彼女らの生活空間から生まれた生の言葉であるうと考えられます。誘導されて出てきたのでも、彼ら彼女らが、特殊というのでもありません。普通の高校生2年生です。人は、その事態に想像力を働かせ、関心を持ち、また、できれば、立場を入れ替えて考えることができれば、本当に思いもかけない解決策や見方を示してくれることを示していると思えます。私は紛争解決のトレーニングを

する者として、絶えず市民らは、自己解決能力を有している、専門家は市民から学べということとを述べていますが、この授業はこれを十分に裏付けることができます。その意味でも、私たちは、生徒を信じ、彼ら彼女から真摯に学ぶべきといえるのです。この授業は、私にとっても大変勉強になりました。

また、教育方法としても検討に値すると思えます。社会における実際の事件で、かつ、身近な事案を元にして具体的に自分もその当事者となつて考えることは、生徒同士がお互いの考えや受け止め方の多様性を知ることができそうです。また、このような授業をすることにより、対人紛争問題の解決能力を持つことができるとすれば、これはむしろ社会に生きるための基礎的スキルと言え、これこそ、中高校性が学校で学ぶことだろうと考えます。

米国では、Peer Mediationとして、学校内で起こった生の事件・トラブルを、生徒が調停者(Mediator)となつて、調整をするという学校教育が盛んに行われていますが、これは日本での初めての導入の試みといえます。

(いなばかずと 京都大学大学院医学研究科 科学技術文明研究所特別研究員)

以下のアンケートでは、個人名を示していませんが、番号を付記することで、一人の生徒が、この授業の中でどのような発展をして行ったかを見ていただきたいと思います。

## アンケート

### 1 伊藤さんと高野らとの話がうまくいかなかった理由はなんだと思いますか。

- 高野さんが原因を作っている(1)
- 伊藤さんが高野さん宅に一人で行ったから(2)
- 話ののりで「吠えていない」と言ってしまう、「やっぱり吠えていたかも」と言えなかった(3)
- 高野さんが自分の非を認めなかったから(4)
- 高野さんが自分の犬が吠えているのに認めなかったから(5)
- 高野さんが犬を吠えたことを否定した(6)
- 高野さんが伊藤さんの意見を一方的に否定したから(7)
- 証拠があるわけではないから(8)
- 伊藤さんと高野さんの話し合いで、高野さんが相手にしていない(8)
- 高野さんが強いから(9)

### 2 どうすれば話し合いがうまくいくと思いますか。

- 高野さんが解決策を出せばいい(1)
- 近所の人を連れて一緒に高野さんと話し合いをする(2)
- どっちの人も一方的に話すぎているから、落ち着けばいい(10)
- 伊藤さんが高野さんを納得させればいい(10)
- まず、伊藤さんが個人でできる対策からスタートする。窓を閉める、音楽をかけて寝る。でも別の問題が発生しそう(3)
- 証拠として犬の声とかを録音しておく。だけでも、他の犬とか言われそう。ビデオで採る。でも十分ではないかも(3)
- 高野さんの周りの人と手を組む(3)
- とにかく人の話を聴け(3)
- 伊藤さんと同じ立場の人を連れてきてまた抗議する(4)
- 中立の立場にいる人を連れて行く(4)
- まわりの意見を聴く(5)
- 高野さんが認めて謝る。しかし、謝ってすむ問題じゃない。部屋で飼う(6)
- 犬が吠えているときに、文句を言いに行く(6)
- 伊藤さんが人を集め、高野さんに文句を言いに行く(7)
- 犬の鳴き声を録音したテープを持っていく(8)

多くの人を呼んで署名運動をする(8)  
もっと多くの同じ不安や不満を持っている人を連れてくる(8)  
証拠が必要(9)

### 3 調停者が間に入っても話がうまくいかなかった理由はなんだと思いますか。

まとめるのが下手だった。リーダーが必要だった(1)  
調停者が優柔不断だったから。軸がない(2)  
話を順序立てないから、中立の人が足でまといとなった(10)  
調停者が最初から自分の意見を言っていたらよかったかも(5)  
ここまできたら引き下がれない。性格が違うから(5)  
間に入っている人がしっかりしていないから。伊藤さんが意見を言ったらそっちについて、高野さんが意見を言ったら高野さんにつくからもっとしっかりした自分の意見を強気で言ったらいい(6)  
中間にいた人が場を仕切っていなかった(7)  
犬のことは認めて謝るが、ビデオを勝手に取るのは許さん(7)  
中間にいる人が中途半端(8)  
証拠を持ってきても納得しない(8)  
真中の人が頼りない(9)

### 4 調停者が入って話がうまくいった理由はなんだと思いますか。

お互いのことを分かる人(1)  
きまりがあった(1)  
調停者がしっかりしていたから(2)  
中立の人が何もしないのにうまくまとまった(10)  
まとめることをしなかった。双方の話しやすい環境を作ったから(4)  
自分だったらすぐに謝る。証拠とかつきつけられる前に苦情が来た時点でごめんなさい(6)  
両方の意見をしっかり聴いてどうするか本人同士で決めさせた(6)  
調停の人が、両者ともに、冷静に話し合える状況を作った(7)  
中間に入るものがしっかりとして両方の意見に流されないようにする(8)